

骨髓検査技師認定試験受験用骨髓検査症例提出書、骨髓検査所見用紙記載手引

(第1-3版)

骨髓検査症例提出書

1. 症例提出書は、各施設の個人情報取扱いの規定に沿って作成する。
2. 骨髓症例提出書、骨髓検査所見の記載は、青字かつパソコン入力とする(手書きは不可)。正しい用語で記載し、誤字に注意する(例 幼弱→幼若、異型性→異形成)。遺伝子はイタリックで記載する。
3. 骨髓検査技師認定試験受験用骨髓検査症例提出書(以下症例提出書)、骨髓検査所見用紙に報告例(見本)にならって各症例の骨髓検査結果および骨髓検査所見を記載する。
4. 症例提出書の提出は、20 症例について行う。標本の提出は行わない。
5. 症例の選定は、提出症例リスト(別紙参照)の大項目 I~III より最低1例選定し原則重複がないようにする。自施設の症例で提出できない場合は、冬季セミナー、指定教育施設(支部)、学会でのケースカンファレンスの症例より報告書を作成する。
6. 症例提出書の記載要領
 - 1) 症例 No は、20 症例の連続番号を記載する。
 - 2) 提出者には、受験者氏名を記載する。
 - 3) 症例の年齢大人〇〇歳、子供〇〇歳、月齢児〇ヶ月、性別、症例提出書作成日、穿刺部位、EDTA 使用の有無(標本作製時)を記載する。
 - 4) 血液血球検査、末梢血液像、生化学・免疫検査結果を記載する。
 - 5) 末梢血液像の白血球カウント数は、基本は 200 カウントであるが、白血球数減少例ではカウント数を記載する。
 - 6) 骨髓像欄に、標本の評価、細胞密度、有核細胞数、巨核球数、骨髓像分類結果を記載する。
 - (1) 巨核球数は計算盤または標本から算出する。
 - (2) 巨核球はカウントに入れない。
 - (3) 好酸球は各成熟段階に分類する。
 - (4) 単球とマクロファージを分ける。
 - (5) マクロファージはカウントに入れる。
 - (6) 巨赤芽球は赤芽球と分けずにカウントし、コメントに記載する。
 - (7) 骨髓細胞のカウント数は、基本 500 カウントであるが、症例によってカウント数を変更しても良い。
 - 7) 骨髓像欄は該当する普通染色法を○で囲み、特殊染色は必要時のみ結果を記載する。
 - 8) ペルオキシダーゼ染色、エステラーゼ染色の芽球陽性率%は、芽球および芽球相当の陽性率を記載する。
 - 9) 細胞所見の欄には、骨髓形態所見を簡潔に記載する。
 - 10) 考察には、免疫表現型(細胞表面マーカー)、染色体検査などを踏まえた病態の考え方、根拠を記載する。
 - 11) 血液学的診断は、医師判定の診断名を記載する。

可能であれば、判断のもととなる診断基準も記載する(FAB 分類、WHO 分類 2008 年版、WHO 分類 2016 年版など)。
7. 症例提出書は、自施設の骨髓検査検閲医師の確認印があるものを提出する。

血液内科医、血液疾患を専門とする小児科医・臨床検査医・病理医、主治医を可とする。
冬季セミナー、指定教育施設(支部)、学会でのケースカンファレンスの症例の場合の捺印者は、指導責任者*とする。
*冬季セミナー(医師委員)、指定教育施設:支部(血液疾患を専門とする医師または当該施設の指導医)、学会でのケースカンファレンス(医師委員)の捺印またはサインとする。

骨髓検査所見用紙

1. 1.標本の評価~7.異常細胞の出現ありについて、該当する所見を○で囲み、枠内には所見を記載する。
2. 形態異常の○印はありの項目のみ付ける。なしの項目の○印は不要である。
3. 7.異常細胞の出現あり、1)形態的特徴、(5)核小体の明瞭(個数や大きさなど特記する事あれば記載する)
4. 8.細胞所見・考察には、細胞所見のまとめ、考えられる疾患名、追加すべき検査などを記入する。